



—朔北の大地を描く—

田中 良 展

TANAKA RYO

平成26年

2月14日金—2月26日水

2月20日(木) 休廊

午前10時00分—午後6時00分
(最終日午後3時CLOSE)

会場：ギャラリー エスペース

砂防柵の海辺
(油彩 F20号)

ギャラリー SINCE 1996
ESPACE
エスペース

自然と実直に向き合う絵

美術評論家 武田 厚

田中 良さんは終戦直後に縁あって北海道へと向かい、オホーツクに近い大地で過ごした時期がある。

そしてそのことが画家となった自身の絵画の主要な主題となり、制作の原点のようなものになっていった。

80年代に描かれた代表作の多くがその朔北の地を主題としたものとなっている理由である。とりわけ厳冬の頃のオホーツクを描いたものが私は好きである。

そこには身を切る風の刃物のような痛さや氷のように冷えた光などが独特の感性で描かれているが、同時に画家の資質による誠実な優しさも佇んで見える。その地に生きた者だけが知っているホンモノの北の風土の息づかいだ。また、90年代に描いた葦原をモチーフとした諸作も素晴らしい。ダイナミックな画面構成と生命力溢れる力強い表現は感動的である。それから以後の作風は次第に穏やかなものとなっていくようにも思えるが、作品の背景に見られる自然と向き合う実直な心根は変わっていない。

今は二科会の理事長として以前とは違う時間の流を体感しているところのようだが、卒寿とは到底思えない若さそのままの感性の自由を新作で見たいと思っている。



公益社団法人 二科会 理事長 田中 良 近影



第98回二科展－国立新美術館(六本木)オープニング会場
理事長としてテープカットをする



北の漁港(油彩 F8号)



オホーツクを望む(油彩 SM)



五月花(油彩 SM)